

會 務

土木學會誌 第十八卷第六號 昭和七年六月

- 昭和七年四月二十六日事務所に於て役員會を開く。前川、大河戸兩副會長、那波前會長、來島、田井、竹股、三浦、寛の各常議員、草間編輯委員長、丹治主事出席し、下記事項に關する決議又は報告ありたり。
 - △工學會より申出に係る萬國工業會議レゾリューションに關する件は次回迄保留すること。
 - △視察旅行々程、見學箇所及宿泊地其の他準備行為に關する經過報告。
 - △服部省三君を會員に、横田清君外四名を准員に佐田悦二君外二名を學生員として入會を承認すること。
 - △會員奈良崎平助君外三名の退會を承認すること。
- 同年四月二十九日より三十日に亘り本年度の視察旅行として別稿所載の如く大阪驛改良工事、大阪市營地下鐵道工事、大阪城、城東線高架工事、龜ノ瀬隧道附近被害狀況、參宮急行鐵道及朝熊山ケーブルカーの視察を爲し伊勢大廟參拜の旅行を催したり。參加者名井會長外五十一名。
- 同年五月九日編輯委員會を開く。草間委員長、山口、岩澤、岡田、宮本、藤井、高田、久保の各委員及菊池囑託出席し下記事項に關し協議を爲したり。
 - △第 18 卷第 3 號所載田中吉郎君著、立花次郎君著、石川時信君著及第 18 卷第 4 號所載石井穎一郎君著の論說報告に對する討議依頼先決定の件。
 - △第 18 卷第 7 號登載すべき論文及討議は神原信一郎君外四名の著に決定すること。
 - △宮本委員提案に係る會誌編輯意見に關する件。
 - △抄譯擔當者として佐藤寛治君を「材料、コンクリート、鐵筋コンクリート」の部に補充すること。
 - △其の他會誌編輯上に關する一般事項。
- 昭和七年五月八日土木學會誌第十八卷第四號發行成規の手續を了し翌九日各會員に配布せり。
- 准員近藤醇厚君は「西松」と改姓、同松村幸雄君は「鎌田行雄」と改姓名せられたり。
- 昭和七年四月十六日以降五月十五日迄に於て入會の手續を了し名簿に登録したる者下記の通り。(○印は移轉を示す)

會 員

- 櫻井季男君 三池銀次君

准 員

緒方重吉君	中 富 武君	鈴木銀次郎君	龍野繁太郎君
永島 徳君	朝谷堅志君	岡木 正君	霜田忠藏君
白石不二夫君	田尻房雄君	○竹内一雄君	中島源次君
中山清作君	沼野義三君	野田耕助君	淵上廷利君
三澤芳雄君	廣瀬孝六郎君		

學 生 員

北野三郎君	稻垣茂雄君	織田圭一君	岡村隆一君
福島俊基君	篠田義道君		

○下記諸君は退會せられたり。

會員	山口圭助君	樽谷萬治君	藤井滋香君
准員	岡部藤次郎君	早坂廣次郎君	守田道隆君
	小山内文雄君	杉之尾實之君	中山榮吉君
	丹生武雄君		

○昭和七年四月十六日以降五月十五日迄に於ては寄贈又は交換を受けたる雜誌其他下記の通り。

工學部紀要第 1 號	北海道帝國大學
造船協會雜誌第 120 號	造船協會
土木建築資料通信第 248 號	土木建築資料通信社
生産管理第 4 月號	生産管理社
川崎發電所工事概要	鐵道省電氣局
日本建築士第 4 號	日本建築士會
衛生工業協會誌第 4 號	衛生工業協會
都市問題第 4 號, 第 5 號, 第 6 號	東京市政調査會
日立機械評論第 8 號	日立評論社
セメント界彙報第 283 號	日本ポルトランドセメント同業會
東京工業大學彙報第 2 號	東京工業大學
帝國學士院紀事第 4 號	帝國學士院
愛知縣土木材料試驗報告第 3 號	愛知縣土木部
滿洲電氣協會彙報第 12 號	滿洲電氣協會
造船局研究報告第 4 號	造船協會
鐵道技術第 15 號	鐵道技術社
日本ポルトランドセメント規格解説	日本ポルトランドセメント業技術會
工業化學雜誌第 5 冊	工業化學會
工學第 5 號	東京工學社
電氣學會雜誌第 5 冊	電氣學會

内外工業時報 5 月號
業務研究資料第 20 卷自 8 號至 17 號

日本水制工論

機械學會誌第 181 號

動力第 17 號

森林治水氣象彙報第 12 號

日立評論第 15 卷第 5 號

最新工學普及會誌

鐵道省官房研究所

會員 眞田秀吉君

機械學會

日本動力協會

農林省林業試驗場

日立評論社

准員木村二郎君、同松田八郎君は昭和七年五月學生員松下登利雄君は同年四月逝去せられたる旨通報に接したり本會は謹んで哀悼の意を表す。

第十七回土木學會視察旅行記 (昭和7年4月28~29日)

本學會の年中行事の一である視察旅行は年と共に盛大を極め、快味を増して行く、百聞は一見に如かずとか、日進月歩の世狀に徴し、今回は若葉新緑の好季天長節の佳辰を下して關西各地探訪の意義深き機會を得たのである。

其の大要は大阪驛附近各工事狀況の視察を経て、新裝なれる大阪城天守閣に至り豊太閤の偉業に感嘆之れを久しうし、續いて天下の耳目を集中しつつある壱ノ瀬附近の大地滑狀況に一驚を喫したる後、古への奈良の都の古典的風物に接し終りに敬崇の念瞬時も措く能はざる伊勢大廟に參拜し神々しさに心身を淨められ豫想外の効果を収めて此の行を終つたのである。

行程の大要を示せば次の通りである。

第一日 4月29日 (金, 天長節)

午前 8時 10分 大阪驛々長室集合

〃 8時 20分 同驛高架ホームに於て講演「大阪驛改良工事に就て」

鐵道省大阪改良事務所 會員 高橋末次郎

〃 8時 50分 講演終了

〃 9時 0分 大阪驛附近高架線地下鐵工事現場視察

〃 9時 15分 大阪市高速鐵道地下鐵第一期工事現場「堂ビルホテル邊より淀屋橋間」視察

〃 10時 0分 淀屋橋停留所廣揚に於て大阪市より茶葉の饗應を受く

〃 10時 5分 大阪市高速鐵道電氣部長清水澤氏より同線路工事の説明あり

〃 10時 50分 大阪城見學

〃 11時 45分 同庭園に於て紀念撮影

午後 0時 10分 大阪中央電氣俱樂部に於て晝食 (關西支部寄贈)

〃 1時 25分 大阪驛發天王寺驛に向ふ, 27分の後天王寺驛着

〃 1時 59分 總ノ瀬行列車乗車

〃 2時 26分 總ノ瀬隧道四口到着同所に於て地況視察

〃 4時 26分 總ノ瀬隧道東口驛發奈良に向ふ

〃 4時 56分 奈良驛着後直に奈良ホテルに向ふ, 數分にして奈良ホテル着

〃 6時 50分 同ホテル大食堂に於て一行の懇親會開催

〃 8時 5分 分會後同ホテル宿泊

第二日 4月30日 (土)

午前 7時 30分 同ホテルに於て朝食

〃 8時 10分 奈良遊覽自動車にて春日奥山ドライブ

〃 9時 20分 大軌電鐵奈良驛發

〃 9時 50分 八木驛着參宮急行電鐵に乗換

〃 10時 11分 八木驛發宇治山田に向ふ途中名張驛にて辨當撤入

〃 10時 45分 分車内に於て晝食

〃 11時 40分 宇治山田驛着

〃 11時 55分 外宮參拜

- 午後 0 時 40 分内宮参拜
- 〃 1 時 0 分内宮に於て大々神樂奉納
- 〃 1 時 40 分楠部驛着
- 〃 1 時 50 分伊勢電鐵楠部驛發朝熊岳に向ふ
- 〃 1 時 58 分平岩驛着直にケーブル・カーに乗り朝熊山頂に向ふ
- 〃 2 時 10 分朝熊岳着濃霧の爲視界を失ひ直に下山
- 〃 2 時 45 分楠部驛着直に自動車にて山田驛前宇仁館に向ふ
- 〃 2 時 55 分宇仁館着同館に於て小憩
- 〃 5 時 30 分同館に於て夕食
- 〃 7 時 0 分會食終了後同所に於て解散

理想的旅行条件は何を措いても天候である、自然の現象は人智の及ばざる所、當日も御多分に漏れず春雨期の何となく濃灰色の空色より次第に湿度を増し午後 6 時頃よりぼつりぼつりと落ち始めたにも拘らず午後 7 時 40 分第一番にユーモリスト細野芳彦氏が馳参ぜられ續いて楠田九郎氏、廣瀬孝六郎氏、川上浩二郎氏、等續々詰めかけられ改札間際迄には一行中東京驛乗車の方々は全部捕はれた。

午後 8 時に至れば 2 日続きの休日の爲か、旅行者はなだれを打つて寄せかけ、さしもの乗車口ホールも立錫の餘地がない様である、改札が始めらるゝや鉄の音と群集のざわめきが高きドームにこだまして耳を壓する計りである内に一行は出發ホームに向ひ列車の快きクツションに身を委ね出發を待つ、間もなく定刻となるやけたゝましき電鈴が出發を傳へ車窓の内外に於ける悲喜交々の情景をよそに、列車は高速電氣機關車に牽引せられて滑り出し此のエキスカーションのスタートを切つた。

車内は惜別の興奮未だ醒めやらぬ内にも列車は帝都のネオン・サインに送られて驚進する。一行は明日の旅程を胸に畫かれつゝも歡談に花が咲き春雨煙る中を長蛇はひた走り、何時しか箱根の峻峯も難なく越え一路大阪へと向つたのである。

明くれば 4 月 29 日朝霧かすかに薄らげば昨夜來の驟雨もからりと晴れ、さながら今日の佳き日を祝福するかの如く、天長の佳節を壽ぐ國旗は各戸に翻り、目を轉すれば琵琶の湖の春色、比叡の靈山は吾等を迎ふるが如く微笑しき窓外の風趣を愛でつゝ列車は午前 8 時 0 分大阪驛に到着此處にて名井會長、田邊前會長を始めとし其の他大阪より参加されたる會員諸氏と合流し一行 11 名より一躍 57 名となり此の大視察團は一應驛長室に入り其れより大阪改良事務所長齋藤飾氏の誘導により新高架線ホームに至れば大阪驛大改良工事並に附近高層建築工事中のクレーン又はリベッター等の騒音は、建設の大阪を第一に印象づける。同所に於て大阪改良工事主要設計圖並に概況パンフレットの頒布を受け 8 時 20 分より同所に於て大阪改良事務所鐵道技師高橋末次郎氏より大阪驛改良工事に就て詳細なる説明を得た。

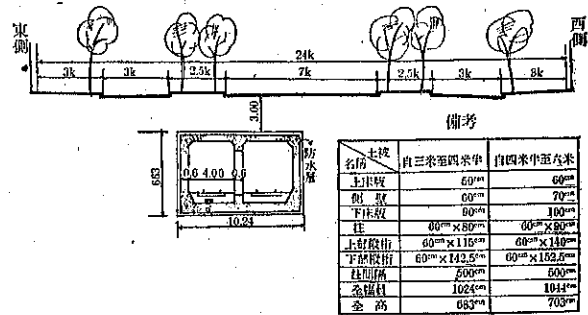
8 時 50 分拍手裡に講演は終り同ホーム下降後同驛構内の高架橋下に於て、市營地下鐵道

を通すべき2個のアーチ型鉄筋コンクリート造隧道の工事を見學し、阪急ビル前に到り同市電氣部長清水瀨氏以下關係諸氏の案内により大阪市高速電氣軌道第一期地下隧道工事現場へ、掘鑿後日も淺き兩側に長尺の鐵矢板の羅列せる坑道より順次巧に配築されたるセンターリングの間を縫ひ乍ら東京の地下鐵道に於ては嘗て見ざる所の open cut にて簡単に工事を進捗せしめつゝ有るには一同驚歎せる所である。此點は先般の第二回工學會大會に於て小野博士の述べられたる地下鐵道の建設費を如何にして低廉ならしむるかに想到して思ひ半ばに過ぐるものがある。

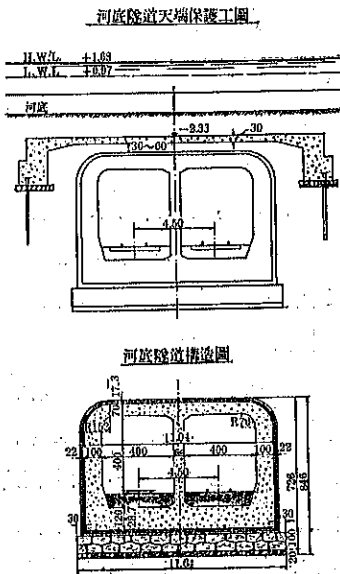
折くて一應地上に出で大江橋下工事及淀屋橋工事等長大なる鐵矢板引抜作業の偉觀を眺め竣功間近き橋下に高速鐵道隧道の存在するを疑はるゝ様である。續いて作業員昇降用エレベーターに依り下降、完成せる淀屋橋停留所廣場に於て同市電氣局の茶菓の饗應に浸りつゝ同市電氣部長清水瀨氏の大阪市高速電氣軌道概要につき約20分に亘り懇切なる説明を受く尙同軌道隧道の大體の断面を示せば第一圖乃至第三圖の如し。

説明終了後經濟的工法の巧緻を

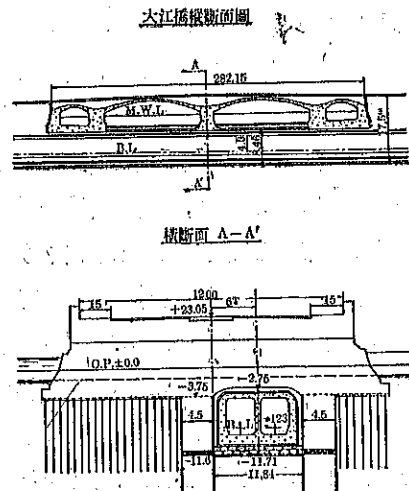
第一圖



第二圖

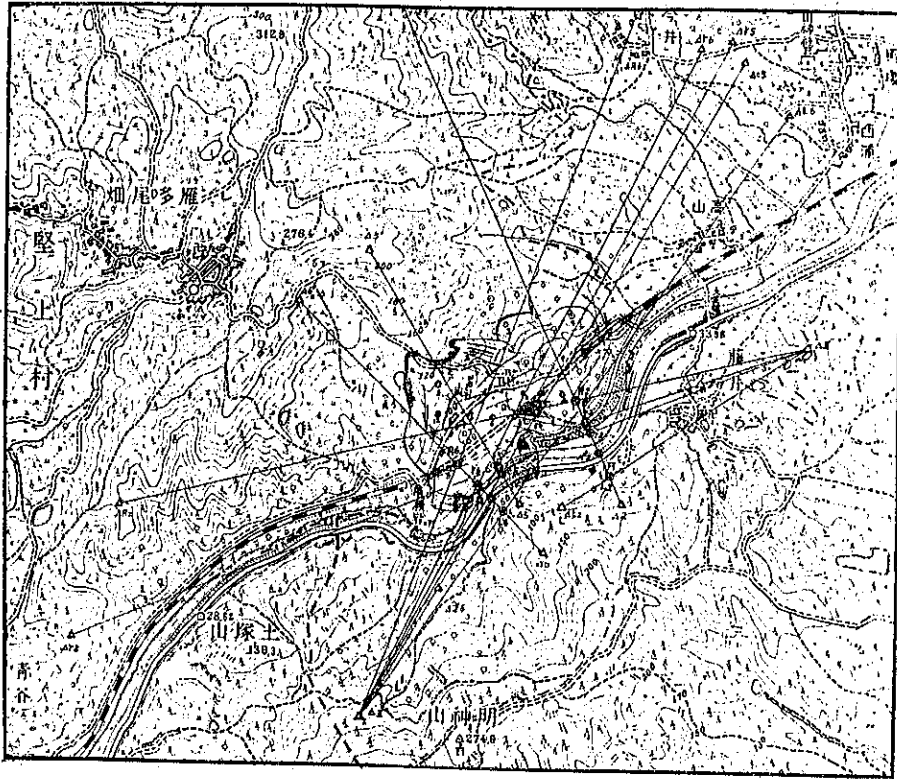


第三圖



極めし支保工の間を通り一行漸く地上の人となり、市電氣局差廻しのバス4臺に分乗難攻不落と稱せられたる豊公榮華の遺蹟たる大阪城へ向つた。當日は本學會視察旅行團の爲に特に許され城内天主閣の麓迄乗付け當局の破格の御好意に感謝しつつ、明治大正兩天皇並に聖上陛下の行幸を仰ぎし由緒ある建物、紀州御殿に案内され大阪市土木部長島重治氏より御大典の紀念事業として改築されたる大阪城公園概要につき、大阪城の沿革より天守閣の復興と閣内の施設並に師團司令部の改築と紀州御殿庭園の改造及公園施設と觀覽順序等に就き懇切なる御説明を受け、11時5分説明終るや鐵骨鐵筋コンクリート造にして五層八重の構造たる標高海拔293.25尺、總延坪1500餘坪の大樓閣が天空に聳立する新築直後の天守閣の頂を極むべく閣内エレベーター及廻り階段等に依り頂上に至れば一望千里折からの快晴に視界は廣まり大大阪を一望に收む、其の爽快味たるや筆紙に盡し難きものがあつた。頂上一巡の後下降階段により途中郷土史料及豊公の遺品等の陳列を瞥見し、紀州御殿前御庭先の池畔紀念碑前にて天守閣をバックにして一同紀念撮影をなし、直に待合中の市バスにて中央電氣俱樂部に向ふ。午後零時10分同俱樂部着、關西支部の御好意に依り同大所食堂に於て晝食の饗應をうけ、關西支部長後藤佐彦氏同支部を代表しての御挨拶あり、次いで名井會長より一同に代りて挨拶ありて晝餐を終りし後徒歩にて1時10分大阪驛集合1時25分天王寺行列車に乗込む。車中城東高架線工事に就て關係諸氏の説明を得つゝ1時25分日本一の高塔と誇る天王寺公園の通天閣も間近き天王寺驛着、直に奈良線龜ノ瀬行列車に移り數々の有益なる見學を得たる大阪に名残を止め、一路龜ノ瀬へ向つた。沿道一帶緑の曠野に小山を交へ、小川を横ぎり山腹を匍ふ中に2時26分各方面の視聽の的たる大地滑動現場龜ノ瀬隧道西口に停車、各地よりの見物客と共に列車を捨て、鐵道局、大阪府、並に内務省大阪土木出張所等より多大なる御便益を蒙りプリント、概況書及圖面等の配布を受けし後御案内に従ひ先づ西口隧道に一步を入れるや坑奥より土砂のなだれ掛りたる様に先づ一驚を喫し、之より山上に向ふもの、迂廻して川筋に行くもの、兩方に分れ、山上に向へば先づ大陥没に伴ふ大地割、噂より現實に直面して一層恐怖の念にかられる、其の慘狀たるや井、沼は涸れ人家は全壞、半壞、孕出し、屈曲等（第四圖及寫眞第二乃至第五參照）想像も及ばざるものあり、識者間に於ては一切は物理的現象を出でざるものとなすも土地住民間にては神の惡戯なりとし日夜祈願にこり容易に祖先傳來の土地を去り難く危險を侵し傾屋に居残り居る様は一種の哀調をそゝる。又川面に目を向けるや既報（第十八卷第三號彙報）の如く河底並に國道隆起の爲湛水の被害の甚大なるを慮り内務省に於ては多額の費用を費し、目下掘鑿中にして土工人夫の活動の様、反面より觀れば一時的失業救濟事業を自然が提供せしものなるか。地は現在1日5~6箇所宛絶えず移動し居るとの事、此未曾有の自然現象は地質學的土木技術の發展を促すものゝ如く、一同各所各様の狀況を心行く迄視察し3時50分東口驛に辿り付き小憩の後4時26分同驛

第四圖 大和川龍ノ瀬附近一般平面圖 凡例 △不動點
 ◎移動觀測表



發、我國固有の藝術の淵藪と謂ふべき雅都奈良へ向ふ。車中にては我が土木界での重鎮たる諸士の研究的歓談も窓外のなごやかなる風景に調和されて興趣を損ねず、4時56分奈良驛着直にバスにて三條通りの名で呼ばれる本町通りを過ぎ猿澤の池を曲り當地隨一奈良ホテルに到着。終日天候に恵まれしとは云へ各地盛り澤山の見學に輕き疲勞を感ずもホテルに於て旅装を解くと共に靜寂なる環境にしばし恍惚として又新たなる興奮を覺ゆ。6時50分同ホテル大食堂にて一行の懇親會が開かれ食卓は賑はひ出す、程なく名井會長一場の挨拶ありし。後那須章彌氏、近藤泰夫氏、草間偉氏及中山忠三郎氏等各々胸襟を開きて懇談的意見の開陳等只一同和氣霽然として一場に漲り殊の外盛會であつた。8時5分散會後休憩室に於て種々漫談に花が咲き何時果つべしとも見えざりしが靜寂の夜は次第に更けやがて一同各自室に入り快きうまいの境に入る。

明くれば4月30日(土曜日)乳を溶かした様な朝霧が垂れ込め東天ほの白む頃、安部仲麿の郷愁で有名な三笠山が端麗な容姿を現はす、そして遙か西に生駒、金剛の兩山脈を望ん

で廣い田園に囲まれた聖都はいとも静けき黎明を迎ふ。午前7時半頃朝食を取り、旅装を整へ8時10分ホテルを出で奈良遊覽自動車に乗り、春日奥山周りの快きドライブを始め、先づ大佛殿前より、芳山と三笠山との間を縫ひて上り花山の裏を廻り緑したる原始林を右に折れ左に曲り千古の幽邃境を心ゆく計り觀賞しつゝ舊春日社人の住居址高畑を通りて8時50分大軌奈良驛着、同社の好意に依り臨時電車の提供をうけ9時20分同驛發朝來より朝霧未だ晴れやらざる中に何時しか驟雨となり廣漠たる曠野を電車は走る。9時50分八木驛にて乗換宇治山田行急行高速電車の我々一行の爲に用意せられた増結車に乗込み10時11分同驛發。同社の請とする高級車は45哩/時の快速に依り同社員の懇篤なる説明を得つゝ車は春雨したる緑の山野を疾駆する。名張驛にて辨當を積込まれ之れにビールを添へ窓外の絶景を賞しつゝ晝食を終へる。かくて11時40分大神宮の鎮座まします神都宇治山田驛に着す。是に吾等に快き旅情を誘發せしめたる同社參宮急行電鐵線工事の概要を略述せば次の通り。

總線路延長：109.9 ㎞、 高架線：スラブ式複線連続鐵筋コンクリート・ラーメン及單桁
橋梁135箇所延長：1033.81 米、隧道全線16箇所にして延長9583.6 米
電氣方式：直流架空單線式 電壓：直流1500 V
信號機：色燈三位式自働閉塞信號機、 聯動裝置：電氣機式聯動裝置

驛到着後直に伊勢乗合バスにて外宮參拜、外宮とは度會宮或は豐受大神宮とも稱し奉る百穀發生の源を掌り天下人民に衣食を給ふ御神とか申さる。之より兩側に櫻と紅葉の交互の並木を持つ行幸道路延長50町を沿道名所舊址の説明を聞き乍らドライブ、程なく峯時25分内宮前着徒歩にて清冽にして千古渴れぬ五十鈴川にかゝる宇治橋を渡り常緑清々しき神苑を豆砂利の音も庄しく神路山の老樹は蕪蔚として翠を滴らし崇高森嚴の氣身に通り、我已に俗塵を離るゝこと遠きを覺ゆ。一の鳥居を経て五十鈴川の流に口を噉き神前に跪きて一同禮拜せば白木共の儘の社殿は神代のさまが偲ばれて西行の「何事のおはしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼるゝ」と叙せるが如く、眞に神威の尊さに自ら頭が下るのである。退出後1時0分神樂殿に於て一同神の御赦をうけし後御神樂奉納幽玄の舞樂に神子の舞姿には神の喜び給ふかも偲ばれる。15分間にして御神樂終り御神酒を賜る。

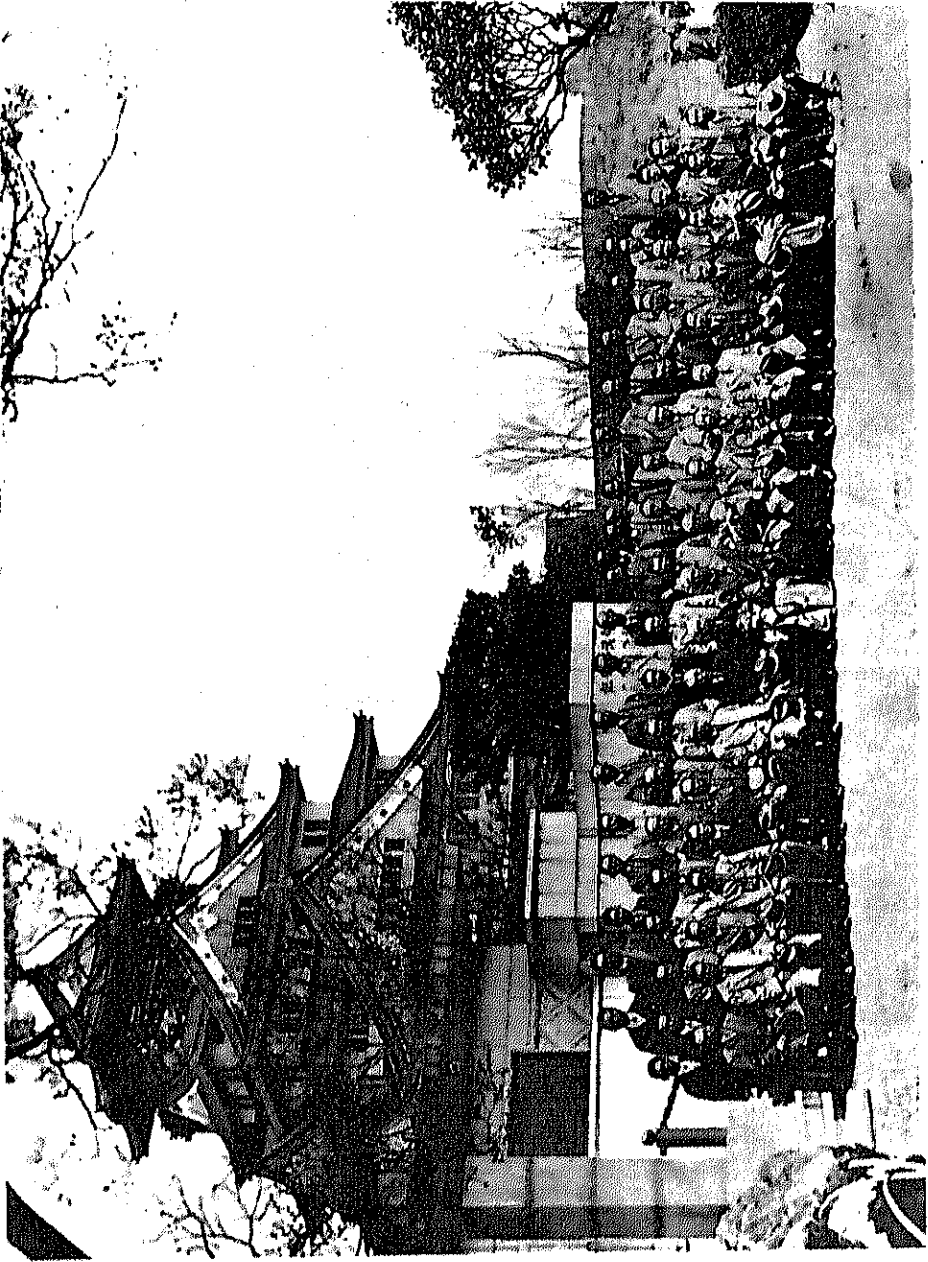
此頃より朝來の驟雨も漸く晴れ心氣清朗、1時30分再びバスに依り伊勢電鐵桶部驛に達し、之れより同電車にて海拔1800尺の朝熊山へと急ぐ、1時58分朝熊山麓平岩驛着直に急傾斜面に敷設されたケーブル・カーにて朝熊の頂を極め、山上より快晴に恵まれなば二見ヶ浦の絶景並に起伏極りなき伊勢一帯さながら鳥瞰圖を現實に生かし得べきに生憎濃霧の爲に咫尺を辨せず、一行落膽の中に直に下山2時45分桶部驛着、バスにて2時55分旅館宇仁館着、今回のスケジュールの全般を恙が無く全ふし、同所に於てゆつくり疲を醫し、午後5時半頃より夕食となり名井會長以下眞に打解けられて一同心地よき食事を終るや寸刻を利

し、伊勢音頭を見んとの議起るや満場一致可決やがて春雨を衝いて自動車にて某家に致り優美な舞姿に昔を偲び午後7時頃伊勢の神都に於て清新なる氣持にて此行の無事終了を祝しつつ一同散會したのである。

此の稿を終るに當り關係諸官公廳並に諸會社の諸氏の熱誠なる御盡力に對し滿腔の謝意を表する次第である。(終)

參加者(順不同)

岩 井 宇 一 耶	名 井 九 介	高 木 天	高 敏 耶	植 原 勇
稻 垣 兵 太 耶	鋤 柄 小 一	目 黒 雄 平	匹 田 敏 夫	坂 本 助 太 耶
川 上 浩 二 耶	如 生 德 耶	藤 井 雄 之 助	堀 永 德 太 耶	菊 池 芳 隆
楠 田 九 耶	中 山 忠 三 耶	宮 川 正 雄	那 須 章 彌	上 床 義 隆
草 間 一 偉	今 泉 茂 松	長 尾 正 元	矢 野 常 一	丹 治 經 三
樺 島 正 義	杉 谷 茂 一	田 邊 朔 耶	糟 澤 惟 助	福 田 武 雄
宮 長 平 作	石 井 穎 一 耶	來 島 良 亮	橋 本 敬 之	細 野 芳 彦
安 藝 杏 一 耶	梅 津 理 次	須 山 英 次 耶	天 野 良 吉	伊 藤 孝 治
山 本 新 次 耶	後 藤 佐 彦 助	近 藤 泰 夫	叶 磯 春	岡 山 銀 次 耶
有 元 岩 鶴	山 木 一 之 保	遠 藤 末 治 耶	金 丸 正 太 耶	廣 瀬 孝 六 耶
高 橋 逸 夫	中 村 一 秀	高 橋 末 治 耶	山 本 卯 太 耶	高 木 健 吉
伊 藤 重 敏	關 口 秀 一			



大塚神社に於ける大塚小学校の児童

寫眞第二 夫婦塚東方の龜裂



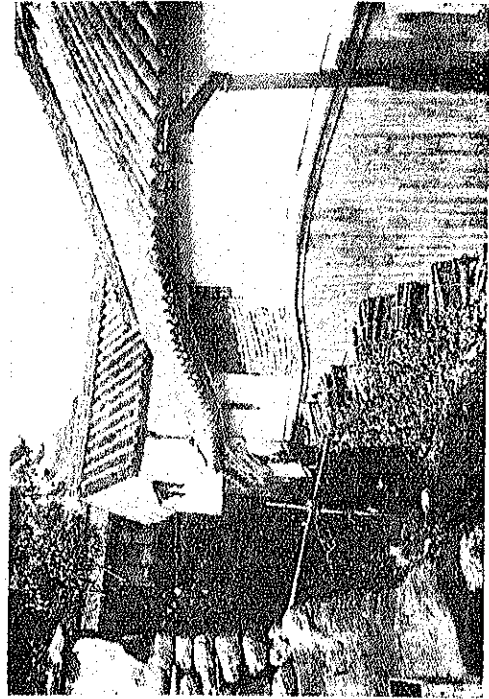
寫眞第三 陸道口の壓塞



寫眞第四 被害家屋(其一)



寫眞第五 被害家屋(其二)



訂 正 表

上水道に於ける二重濾過試験並に微生物の消長に就ての考察

(第十八卷第三號所載)

頁	行	誤	正
382	上より 16	$(6200^{\text{円}} - 4800^{\text{円}}) \times 365 = 511000^{\text{円}}$	$6200^{\text{円}} - 4800^{\text{円}} = 1400^{\text{円}}$
"	" 20	511000 ^円	1400 ^円
"	" 21	30000 ^円	84000 ^円
"	"	2割7分許り	1割弱
383	" 6	(2)	本項全部を削除
384	下より 6	(3)	(2)
385	" 4	終りに以下	全部を削除

訂 正 及 正 誤 表

(第十八卷第五號所載)

VERSUCHE ZUR BESTIMMUNG DER GLEICHFÖRMIG FLIESSENDEN BEWEGUNG
DES WASSERS UND HERLEITUNG EINER ALLGEMEINEN GESCHWINDIGKEITS-
FORMEL FÜR NATÜRLICHE WASSERLÄUFE.

Seite	Zeile	Berichtigungen.
3	15 v. O.	„am“ statt „an“ ;
6	3 v. O.	$v = \left[\sqrt{0.0025m + \sqrt{68.72R_1 \sqrt{J} - 0.05 \sqrt{m}}} \right]^2$
6	11 v. O.	„in den übrigbleibenden mittleren Wert“ statt „in dem übrigbleibenden mitt'eren Werte,“ ;
8	7 v. O.	„festzustellenden“ statt „fest zuste lenden“ ;
8	15 v. U.	„der fehlerhafte Bau“ statt „den fehlerhafte Bau“ ;
16	7 v. U.	„4 und 5“ statt „4, und 5“ ;
18	2 v. O.	„kurzer“ statt „kürzer“
27	1 v. U.	„Profilradien“ statt „Profilradius“ ;
28	4 v. O.	„der Kämpferöle (A) und (B)“ statt „des Kämpferöls A und B“ ;
28	5 v. U.	„Tabelle 8“ statt „Tabelle 8.“ ;
29	5 v. O.	„0.9246“ statt „0.9249“ ;
32	3 v. O.	$J' = \frac{A}{\left(\frac{A}{\delta}\right) l} = \frac{A}{\gamma} \frac{1}{l}$;
33	18 v. O.	„gleichen Profilradius“ statt „gleiches Profilradius“ ;
33	11 v. U.	„Fig 3“ statt „Fig 3.“ ;
34	1 v. U.	„Fig 3“ statt „Fig 3.“ ;
36	14 v. O.	„[log v · log J]“ statt „[log v]“
38	7 v. U.	„Fig 4)“ statt „Fig 4)“ ;
42	8 v. U.	„Tabelle 25,“ statt „Tabelle 25“ ;
43	14 v. U.	„wurden“ statt „wurde“ ;
47	4 v. U.	„+10 ⁻²⁶ × 5.29640“ statt „-10 ⁻²⁶ × 5.29640“ ;
48	3 v. U.	„+10 ⁻²¹ × 193.979934“ statt „-10 ⁻²¹ × 193.979934“ ;
55	2 v. O.	„natürlichen“ statt „naturlichen“.